



日産のCSR 重点8分野

バリューチェーン — すべてのバリューチェーンでCSR活動を推進

日産はビジネスパートナーとの信頼を基本に、お互いの持続的な成長を目指しています。

私たちは、常に対等な立場でサプライヤーや販売会社の意見に耳を傾け、競争の激しい自動車業界において、ともに切磋琢磨し合うパートナーとして、ベストプラクティスを導き出す協力関係の維持・強化に努めています。

グローバルに活動を展開する日産のバリューチェーンは世界各地に広がっています。

そのすべてのバリューチェーンで一貫性のあるCSR活動を推進するために、日産のCSRに対する考え方や方針をビジネスパートナーと共有し、CSRマネジメントの向上を目指しています。

■ ビジネスパートナーとともに

1. サプライヤーとともにCSRを実践

日産にとって、すべてのサプライヤーが大切なビジネスパートナーです。
「信頼(公平に、プロ意識を持って)」「相手への敬意(約束、義務、責任を果たし)」「透明性(オープンに、率直に、明快に)」という3つの価値を共有しながら取り組んでいます。

2. 販売会社とともにCSRを実践

日産では、販売会社とコンプライアンスの意識を共有し、より強固な内部統制を構築できるように、さまざまな取り組みを推進しています。販売会社とのコミュニケーションを強化しながら、CSRマネジメントのさらなる向上を目指しています。

サプライヤーとともに
CSRを実践

販売会社とともに
CSRを実践

■ サプライヤーとともに

公平・公正を規範とした日産の調達方針

取引先の決定にあたり、日産は透明性のある公平・公正な業務プロセスを徹底しています。国籍、企業規模、取引実績の有無にかかわらず、広く参入機会を提供し、選定に際しては関係部門が一堂に会してサプライヤーからの提案を横断的に検討します。そして、選定結果は参加したすべてのサプライヤーに必ず説明しています。

実際の取引においても、「日産グローバル行動規範」(第4項「公平・公正な関係」)を順守し、公平・公正な業務の徹底を高い水準で維持するよう努めています。日常の緊密なコミュニケーションに加え、サプライヤー各社へのアンケートや意見交換を定期的に行い、社外の視点からのチェックも行っています。

また、自動車産業が目指す調達上の原則や、下請法および独占禁止法上の留意点などをまとめた「自動車産業適正取引ガイドライン」について社内への周知徹底を図るとともに、サプライヤーに対しても説明会を実施し、サプライチェーン全体で取引の適正化を推進しています。

「サプライヤーCSRガイドライン」を作成

日産とルノーの購買部門は、取引を行うにあたって大切にしている価値やプロセスを、「The Renault-Nissan Purchasing Way」という小冊子にまとめ、2006年よりルノー・日産共同購買会社の1次サプライヤーと共有してきました。その後、私たちの事業活動はアジア、東欧、南米、南アフリカといった地域にまで急速に拡大。一方、世界ではCO₂排出削減などの環境問題がクローズアップされており、今後はグローバルに広がるサプライヤーとともにCSRを実践していくことが求められています。

そうした背景のもと、日産はルノーと共同で「ルノー・日産サプライヤーCSRガイドライン」を作成し、2010年からグローバル1次取引サプライヤー全社(約7,600社)に配布しました。本書の目的は、サプライヤー各社の企業活動をCSRの視点で見直していただくとともに、CSR活動をさらに浸透させていくことです。本書は、日産のCSR方針および調達に関する方針を明記したうえで、「安全・品質」「人権・労働」「環境」「コンプライアンス」「情報開示」の主に5つの項目について説明しています。作成に際しては、日本自動車工業会および日本自動車部品工業会のCSRに関するガイドラインを参考としました。

2010年度以降の新規参入のサプライヤーについては、このガイドラインの順守の徹底を図っていきます。

サプライヤーと共同で取り組む「ものづくり活動」の強化

日産では、より競争力のある商品を常に生み出すため、2008年からサプライヤーと日産の連携による「ものづくり活動」を進めてきましたが、この活動を発展させるため、サプライヤーとの信頼と協力を重視した共同改善活動(「Thanks活動」)を2009年より推進しています。サプライヤーとともに厳しい市場でコストリーダーとなることを目指し、部品当たりの生産量増加、現地化の徹底、物流の改善などを実施しながら、品質向上、コスト低減、製造の合理化などに取り組んでいます。

2010年1月より活動の内容と成果を多くのサプライヤーと共有して活動の浸透を図るための報告会を定期的に行い、2011年3月に開催した報告会では約200社からおよそ400名の皆さまにご参加いただきました。



「The Renault-Nissan Purchasing Way」および「ルノー・日産サプライヤーCSRガイドライン」は、NISSAN GLOBALサイト内ビジネスパートナーの項目からダウンロードできます。併せてご覧ください。

http://www.nissan-global.com/JP/COMPANY/CSR/STAKEHOLDER/BUSINESS_PARTNERS/



サプライヤーとの品質の取り組みに関する詳しい情報は、下記のウェブサイトに記載しています。併せてご覧ください。

http://www.nissan-global.com/JP/QUALITY/PRODUCTS/GLOBAL_SP/

事業発展に貢献したサプライヤーをグローバルに表彰

日産は、毎年世界の各拠点で事業の発展に貢献していただいたサプライヤーを表彰するとともに、グローバルレベルで業績向上に寄与されたサプライヤーに対して、日産グローバルサプライヤーアワードとして「グローバル品質賞」と「グローバルイノベーション賞」を贈呈しています。この表彰制度は、品質、コスト低減、技術開発といった経済活動、環境配慮、社会性の3つの側面でバランスのとれた経営を行うという日産の考え方が、グローバルレベルでサプライチェーン全体に浸透することを目的としています。

グローバル品質賞は、購買部門や品質部門などが、グローバルに統一された品質評価基準に基づいて選考します。グローバルイノベーション賞は、商品技術とプロセスマネジメントの2分野において、生産・開発・品質など関連部門の推薦を受けたサプライヤーを選考します。2010年度は、3社がグローバル品質賞を受賞し、グローバルイノベーション賞は商品技術分野で8社が受賞しました。

ニッサン・グリーン調達ガイドラインをグローバルに拡大

日産は、自動車の部品・資材などのサプライヤーに対する環境配慮への取り組み基準「ニッサン・グリーン調達ガイドライン」を発行し、サプライヤー各社に環境負荷低減への協力をお願いしています。国内向けに2001年に発行、2008年の改訂版からは欧州・アジア地域をはじめグローバルに展開しています。1次取引先にも協力をお願いし、サプライヤー各社の調達先を含むサプライチェーン全体での環境負荷物質管理の促進と継続的な削減に取り組んでいます。

2010年には「ルノー・日産サプライヤーCSRガイドライン」の作成と併せて内容を改訂し、説明会を実施。NISSAN GLOBALサイトで公開しています。



「ニッサン・グリーン調達ガイドライン」は、NISSAN GLOBALサイト内ビジネスパートナーの項目からダウンロードできます。併せてご覧ください。

http://www.nissan-global.com/JP/COMPANY/CSR/STAKEHOLDER/BUSINESS_PARTNERS/

■ 販売会社とともに

販売会社と共同で取り組むCSRマネジメント

日産では、販売会社とともに一貫性のあるCSRマネジメントを推進するため、日本国内の日産販売会社向けにコンプライアンス強化を目的とした活動を継続的に実施しています。

具体的にはコンプライアンスに関する管理レベルの把握と改善を目的とした自己点検プログラムを2010年度についても各販売会社で実施し、販売会社内での気づき、自発的改善につなげました。また、2011年3月の販売会社代表者会議では、最近のコンプライアンス動向および2011年度の取り組みについて情報共有を行うなど、各販売会社と一体となってコンプライアンス強化の取り組みを推進しています。

日産は販売会社とともにコンプライアンスへの意識を共有し、より強固な内部統制の構築に努め、CSRマネジメントのさらなる向上を目指しています。

Area Leaders' Messages

日産のCSR 重点8分野 オーナーメッセージ

サプライチェーン全体でのCSR浸透を支援

購買管理部
主管

真保 直紀



購買部門ではルノーとともに、取引において大事にしている価値や理念を小冊子にまとめ、2006年からサプライヤーと共有しています。その後、日産の事業拡大につれ、CSR活動を世界のサプライヤーとともに実践することが必要となってきました。そこで、新たに「ルノー・日産サプライヤーCSRガイドライン」を策定し、2010年度にグローバル1次取引先に配布しました。本書は、各社の事業活動をCSRの視点で見直していただき、CSR活動のさらなる浸透を図ることを目的としています。日産は今後も、サプライヤーとの相互信頼を深め、互いに有益なパートナーシップを築けるよう努めていきます。